

議案に対する質問

行政評価結果の報告について

問

①この結果は一種の仕分けになるのか、評価の性格を問う。
 ②654案件中、47件の外部評価の結果があるが、最終的な結果として、残余の案件に関し、重点化の案件が何件と事業の中止・廃止の判断になった案件の内訳を問う。

答

①全事務事業に対して、内部での自己評価を行う。これは直接担当している職員がその事業効果あるいは妥当性・有効性・効率性について検証する。それを踏まえて、1次評価として課長が再度それに対しての評価をし、改めてそれに対して2次評価として、部長が評価をするという内容である。
 必要なものについては、外部評価という形で行政評価委員会のほうで審議・調査する。
 ②重点化とされたものが15件

質疑

あり、主な事業としては、住民自治の推進、あじの郷づくりとしての食育と食文化の振興交流事業、特定健康診査等事業などであった。

次に、見直しの上、継続とされているものが92件であり、事業縮小は1件であった。また、廃止という判断をされたものが9件であった。

シルバー人材センター事業の今後について

問

政府による事業仕分けでは、シルバー人材センターの予算が3分の1カットされている。伊予市では重点化として評価されている理由を問う。

答

この事業は、高齢者の生きがいづくり、仲間づくり、就業支援等も含めた、豊かな老後をおくり、社会貢献をしていただく目的で実施している。しかし、平成19年度から社団法人化され、経費もかなり

かかり、請け負っていた公共事業が縮小されている現状がある。年間1億2000万円の受託収入があるが、給与体制に反映できておらず、運営がなかなか困難な状況である。国は縮小との見解であるが、国の補助も勘案しながら、市としては、金銭面も含めて助言・指導していきたい。



シルバー人材センター

公の施設の区域外設置に関する協議について

問

①改築予定のトイレ周辺には、県管理の、えひめ森林公園のトイレがあるのに、改築する必要はあるのか。
 ②この場所に必要なら、県に要望してはどうか。

答

①まず、上三谷地区のほうから、ぜひとも整備してほしいとの要望があり、それを受け内部で検討した。

現在の利用は、うえの保育所で年間約50名、伊予幼稚園で年間約70名、伊予小学校で年間約100名程度が遠足等で利用している。また、えひめ森林公園は年間約9万1000人、谷上山公園は約1万2000人の来園者がある。

これらを勘案したところ、トイレが整備されることで、利用する頻度が高まるのではないかと、観光ガイドブック「いよゆるっと88」の中に大谷池は景勝地として掲載されており、こういった観点からも、この改築は必要だろうと判断した。

②現在建っている場所へ建て直すということで、えひめ森林公園の区域外であり、難しいと判断した。

問

佐礼谷診療所の民営化協定について

答

貸付けの話は、市から出たものか、それとも医師からか。
 ②貸付期間は10年であるが、事業中断の場合の方策は。
 ③指定管理ではなく、民営化になった経緯を伺いたい。
 ④2階はどうなっているのか。

①平成18年佐礼谷地区の市政懇談会で話が出た。経費を抑えた運営をしていくことが、診療所の存続につながるのではないかと、所長から民営化の申し出があった。

②途中で経営が事故等でできなくなった場合は、所有者である市が新たな管理者・経営者を探して、経営を続けるという義務がある。

③指定管理だと、現在の国保直営という運営形態がそのまま残り、診療時間等も所長・経営者の判断で自由に決められない。

所長は将来医療法人の設立も検討しているが、指定管理のままだと、医療法人の設立も認められないので、民営化という方針を決定した。
 ④2階部分は農林水産省の補助を受け、林業者の健康管理施設として設立した。今回は、1階部分のみの貸付けとなる。